

鵜の島地区は、江戸時代に入り江を干拓事業で埋め立てた地域と、宇部岬から伸びた砂州だった地域が地形的にも明らかに分かれる。ふれあいセンターを発着点に、地形的要素を感じながら地域南部を約1時間歩いた。

## 創刊110周年記念 誇れるふるさと 24地区リレー <鵜の島④ 散策マップ>



### 埋め立て前の地形に思いはせ



### かつての砂州や渡辺翁の別荘跡



ふれあいセンターから西に向かうと、鵜の島街区公園(①)が見えてくる。遊具のあるエリアを含め三つのエリアに分かれおり、面積は1・48haと市内に62ある街区公園の中でも最も広い。散策時

も地域の人がグラウンドゴルフを楽しんでいた。公園を横切りJR宇部線沿いをさらに西へ。道路より一段高い土手の上を走っている線路はかつての砂州の部分であり、

かがえる。

鵜の島街区公園は入り江を埋め立てた部分だとうかがえる。国道190号を横断し、地区西端の助田町の住宅地を進むと、川もないの年に突然、石橋の欄干が現れる。橋の名前は栄橋(②)。銘板には「昭和12年3月」とあり、東側には栄川街区公園がある。かつて橋の下、そして

公園がある場所には栄川という川があった。江戸時代、鵜の島地区の水はけが悪くなつたことで砂州を掘り抜いて作った川に架かる錦橋の両側に川に架かる錦橋の両側にあつた獅子の像で、もう1対は中津瀬神社にある。お参りを済ませ、さらに東進。新川地区との境をなす市道を北上する。小

さくに進むと松濤神社(④)が現れる。縁結びや商売繁盛の神として、55(昭和30)年に島根

県の出雲大社から勧請し、神社を守るのは「ま犬ではなくライオン」。真締

4日スタート。 次回は黒石地区。